生命のにぎわい調査団

生命のにぎわい通信

第 16 号：発行　平成23年（2011 年）3月

発行：千葉県環境生活部自然保護課
生物多様性戦略推進室
生物多様性センター
〒260-8682　千葉市中央区青葉町955-2
（千葉県立中央博物館内）
TEL 043-265-3601　FAX 043-265-3615
URL http://www.bdcchiba.jp/monitor/
E-mail　monitor@bdcchiba.jp

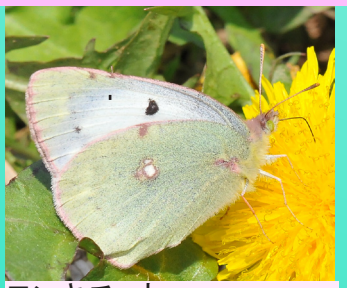
春を告げるシロチョウ４種の見分け方

ツマキチョウ

桜の季節に見られる可憐なチョウ。羽根を閉じると美しいコケ模様がある。

メスには黄色が無い。食草はタネツケバナ

写真　a0512



モンキチョウ

メスは白く見えるので後ろ羽根中央の紋を確認。オスは黄色い。

食草はシロツメクサなどのマメ科

写真　a0261

モンシロチョウ

淡い黄色が優しい印象を与える。明るい環境を好み草原や畑に多い

食草はアブラナ科

写真　a0261

スジグロシロチョウ

白い羽根に黒いラインがくっきり入る。羽根の付け根にはっきりとした黄色い紋がある

食草はアブラナ科

写真　a0261

ニホントカゲとニホンカナヘビ

ニホントカゲ（a0195）

ニホントカゲ幼体（a0544）

ニホンカナヘビ（a0259）

啓蟄も過ぎ、ニホントカゲとニホンカナヘビが、冬眠から起き出して活動を開始し、草地や花壇などで日光浴をしていますので、探してみましょう。

ニホントカゲ（調査対象生物）の成体は、茶色の体に体側には黒いスジがあり、ウロコが細かく滑らかなツヤがあります。

ニホントカゲの幼体は、非常に鮮やかな黒地に金茶色のスジ模様とメタリックブルーの尾があります。

ニホンカナヘビは、体表がざらついて乾いたような茶色で光沢が無く、ニホントカゲに比べると、首にくびれがあり、尾が長いです。

両種とも、昆虫類やクモを食べ、冬眠します。

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報　は、調査団のホームページをご覧ください

「調査団」http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html と「生物多様性センター」http://www.bdcchiba.jp/

ウグイス（ウグイス科）、メジロ（メジロ科）

ウグイス

意外に地味な茶色の鳥、上面は緑色味のある茶色、下面は汚れた白色で、雌雄ほぼ同色です。平地から林の薮の中にいます。

全国で繁殖し、さえずりは「ホーホケキョ」、また、警戒時の声（谷渡り）「ピピ､ケキョケキョケキョケキョ」がある。冬は笹鳴き「チャッ、チャッ」と鳴きながら薮から薮へと渡り歩いているため姿を確認しにくいが、市街地の公園や庭にも来ています。（写真 a0285）

メジロ

きれいな緑・ウグイス色で、目の周りが白い。時々、「梅にウグイスが来ました」と間違えられていることがあります。

花の蜜が大好きでウメやサクラ、ツバキの花に嘴を差込んでいる姿をよく見かけます。

か細い声で「チーチー、チュルチュル」とよく鳴いている。

さえずりは早口で「長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛」と聞きなされます。

（写真 a0261）

調査フォーラムと写真コンテストを開催しました!!

a0284「獲物はでかいぞ！(ニホンイタチ)」

調査フォーラムが、平成23年3月5日（土）に開催され、総勢60名の参加がありました。

当センターからは千葉県における外来生物の実態と外来生物に対して私たちに出来ることは何かについての報告と、調査団からの報告結果が何に活かされているかについての紹介を行いました。

団員からの事例紹介は、千葉市の高見さんから国蝶オオムラサキを4年間にわたりその生態を観察したことが紹介されました。

a0285「獲ったどぉー！(ミサゴ)」

同日に開催された写真コンテスト（応募作品 37 点）で、フォーラム参加者の審査・投票により最優秀賞、優秀賞が選ばれ、表彰を行ないました。

３７作品、いずれも生物の生態を撮った力作揃いでした。

最優秀賞は a0284 さんの「獲物はでかいぞ！」

優秀賞は a0285 さんの「獲ったどぉー！」 が選ばれました。

次年度の、当センター年報の表紙を飾る予定です。また、応募作品は今後、展示で活用させていただきます。

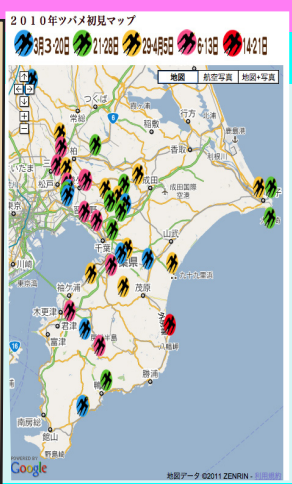
＜これからの生物季節の報告＞

ソメイヨシノ開花　3月下旬～4月上旬

ツバメ初飛　3月中旬から4月　※調査報告をお待ちしています。

＜外来生物の報告を求めています＞

特定外来生物：アライグマ、オオキンケイギク、オオフサモ、ナガエツルノゲイトウ、　要注意外来生物：スクミリンゴガイ

〇千葉県生物多様性ハンドブック2

「外来生物がやってきた」（平成23年3月末発行）